

II-114

淀川河川敷における植生調査

大阪工業大学大学院 学生員 ○井上 茂之
 金沢大学 大学院 学生員 山本 貴章
 大阪工業大学工学部 正員 綾 史郎

1.はじめに

従来、河道内に生育する植物については、治水・利水の面から障害源としてみなされ、撤去されてきた。しかし、近年、自然環境保全の考え方の高まりと河川景観上の見地から河道内に生育する植物を自然の状態で残す努力がなされるようになってきている。こうした状況の下、河道内に生育する植物等について調査した研究は少ない。そこで、我々は昨年より淀川河川公園内(淀川河口から11.4km地点～13.6km地点)に自然の状態で近い形で生育する植物について、その種類と分布について調査を行ってきた¹⁾。本年は、引き続いて草本の植生調査を行うとともに、樹木についても調査を行ったので報告する。

2.調査概要

河道内の高水敷に生育する草本については城北大橋より撮影した写真等を用い、平面上の植生分布図を作成した。樹木の位置決定は平板測量で行い、更に左岸では樹種を判別し、樹高、直径、樹冠高、枝下高、樹冠幅を計測した。

3.結果

樹木は主に淀川低水路の水際部、ワンド周辺部と低水護岸付近に分布・生育する傾向が見られた(図-1)。城北大橋付近における草本については、オギ、セイタカアワダチソウ、ヨシ、セイタカヨシ等の生育が確認できた(図-2)。ヨシは、淀川及びワンド周辺の水際に生育し、オギ、セイタカヨシは、水辺から少し離れた小高いところに生育していた。セイタカアワダチソウは、低水護岸上とやや地面が荒れた場所に分布していた。樹木本数は全調査区間内右岸に77本、左岸に95本の合計172本が、主に淀川低水路、ワンド周辺の水際及び低水護岸周辺部に生育していた(図-3,4)。また、左岸においては、カワヤナギ、キヌヤナギ等のヤナギ属を中心に、エノキ、アキニレ、センダン、ハゼ等12種の樹木が確認できた。種別の本数では、ヤナギ属が62本で最

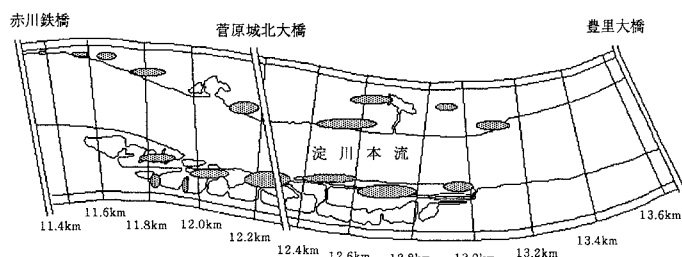


図-1 11.4km～13.6km地点における樹木分布概要図

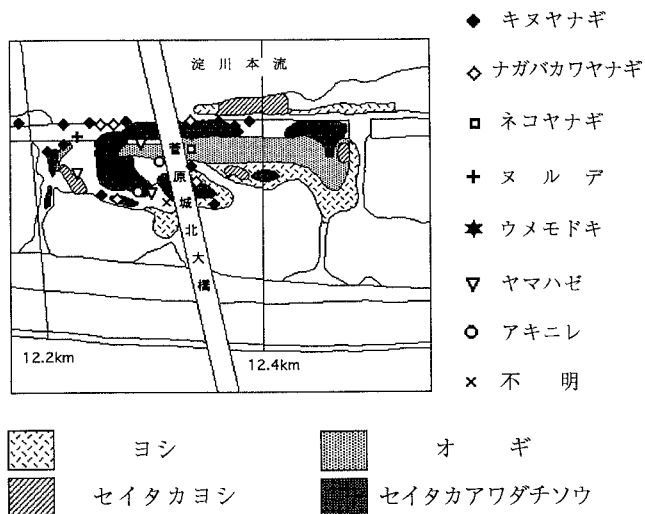


図-2 城北大橋付近の植物及び樹木分布図

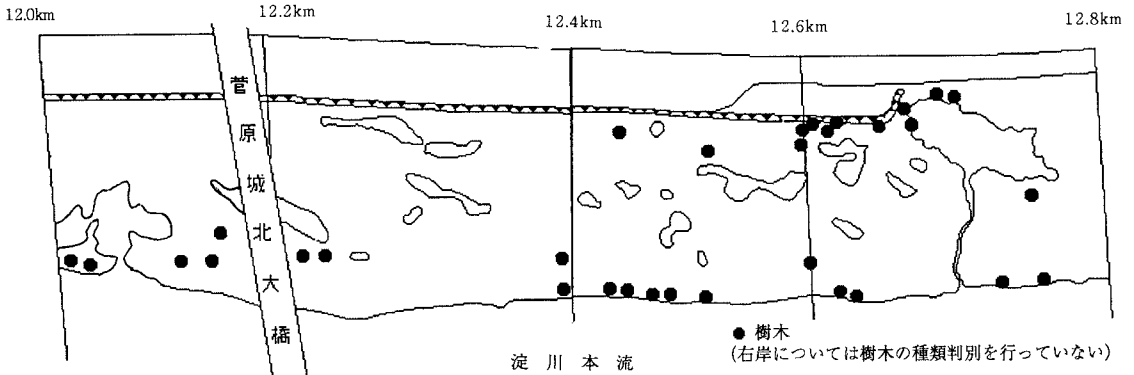


図-3 12.0km～12.8km地点における右岸の樹木分布拡大図

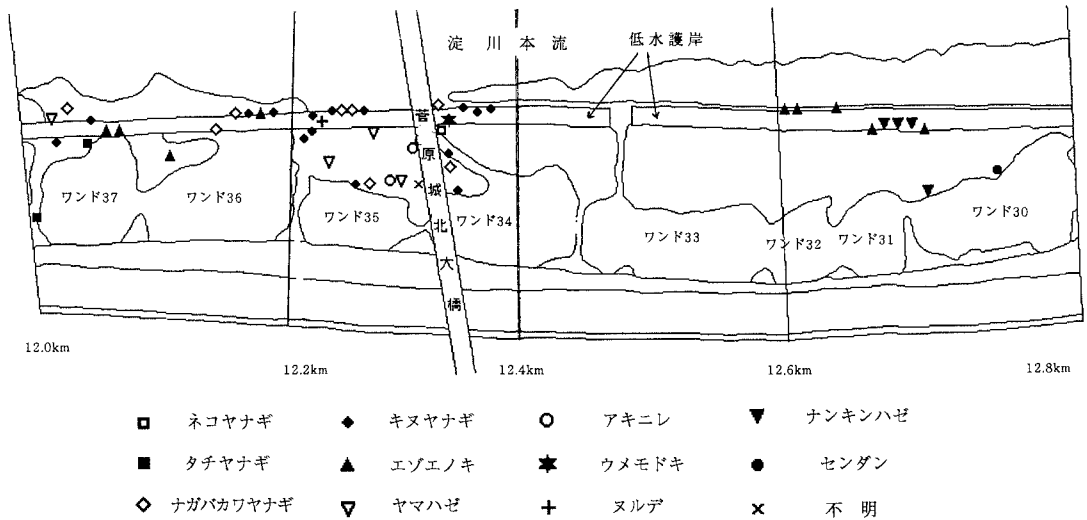


図-4 12.0km～12.8km地点における左岸の樹木分布拡大図

も多く、全体の6割以上を占めていた。樹高の最高は、アキニレの753cm、直径の最高はキヌヤナギの24.2cmであった。また、樹冠高が最も高かったのは、ナガバカワヤナギの636cm、樹冠幅が最も広かったのは、キヌヤナギの708cm、枝下高の最高はアキニレの492cmであった。

4.まとめ

- 1)ヨシは水際に、オギ、セイタカヨシは水辺から離れて生育していた。セイタカアワダチソウは他の植物が育たないような荒れた場所に群生しており、その繁殖力の強さがうかがえた。
- 2)樹木は主に淀川低水路に多く分布するが、ワンド周辺の水際及び左岸側は低水護岸周辺部にヤナギ類を中心に生育していた。
- 3)今後、淀川右岸側についても樹木の詳細を調査する予定である。

謝辞：本研究を行うにあたっては、水圏環境研究室卒研生の協力を得るとともに、河川整備基金の援助を受けた。記して謝意を表する。

参考文献 1) 井上茂之、綾史郎、雄倉幸昭：城北ワンド付近における河道内植生，第49回年次学術講演会講演概要集，pp194-195